

■古川古松軒 地理学者。賭博に溺れるも改心して、生真面目な学者となり、幕府に重用される後半生となった。
ふるかわこしょうけん
懐徳堂公認・1726＝ 備中国の岡田藩領下道郡新本村で、代々村の庄屋を勤める薬種業の古川護次の子に生まれる。

享保大飢饉・1732＝ 6歳：
・・・・・・1733＝ 7歳：和歌を詠む教養ある女性だった母が死去したため、母方の祖母に育てられる。

昆陽蕃諸考・1735＝ 9歳：

梅岩没・・・・1744＝18歳：
徳川吉宗隠居1745＝19歳：この頃、京都に住む。

徳川吉宗没・1751＝25歳：

薩摩藩工事・1753＝27歳：

大岡忠光没・1760＝34歳：

・・・・・・1762＝36歳：

千代女句集・1764＝38歳：父が死去。

家業を継ぐも、賭博にふけり、代金不払いで大坂の薬問屋から訴えられるなどし、

・・・・・・1769＝43歳：賭事を止めるべく神文を書いて改心。

御蔭参流行・1771＝45歳：
田沼意次老中1772＝46歳：
以後、実学を重視し、'百聞一見にしかず'をモットーに、各地を旅行して写生画も含めて詳細に記録し、

・・・・・・1780＝54歳：

蘭学階梯・・・・1783＝57歳：*山伏姿となって6ヶ月かけて九州を旅行し、紀行文の名著「西遊雑記」を著す。

長男が松平定信の家臣小笠原家の典医の養子となっていたことから、

田沼意次失脚1786＝60歳：
寛政改革始・1787＝61歳：寛政の改革を始めた松平定信に地理に詳しいことが知られ、
・・・・・・1788＝62歳：*幕府巡見使の120人視察団に随行して陸奥から蝦夷地を旅行することになり、名著「東遊雑記」を著し、
初の横綱・・・・1789＝63歳：*松平定信の呼び出しを受けて初めて面会して、「松平楽翁謁見録」を遺す。続いて、「東遊雑記」・コンパス
測量の図・九州旅行時の庶民生活の記録「下民の風俗書き上げ」を提出、「東遊雑記」の中で林子平の「三国通
覧図説」の記事の間違いを多く指摘、子平の処罰に関わったと考えられる。

松平定信引退1793＝67歳：
オランダ 正月・ 1794＝68歳：幕府勘定奉行から武蔵国の地理調査を命じられ、高齢理由に固辞するも再三の呼び出しで引受け、
写楽・・・・1795＝69歳：*「武蔵国五郡之図」「四神地名録」を提出して、帰郷すると、岡田藩主から、苗字帯刀・二人扶持を与えられ
士分に取り立てられる。有井に草庵を結んで隠棲するも、
昌平黉始・・・・1797＝71歳：なお、備中・備前境の干潟干拓を検分すべく派遣された幕府官僚に仕え、
古事記伝・・・・1798＝72歳：この年蝦夷地を経てエトロフに向かった近藤重藏からの'「東遊雑記」を携行して記事の正確さに驚いた'と
の称賛の手紙を受取って、

ワザ船狼藉・ 1807＝81歳：没した。

「人づくり風土記(岡山)」,「没年日本史人物事典」,